学位記授与式式辞

令和４年度数学・数理解析専攻主任
入谷 寛

専攻主任の入谷です．本日はみなさま修士修了まことにおめでとうございます．セミナーハウスからも見えていますが，桜の咲くよい季節となりました．平年よりもずいぶん早く開花が始まったようです．

皆さんの修士課程の在学中，ここ３年ほどですが，コロナの影響で学生生活に様々な制約がありまして，皆さんには申し訳なかったなと思っています．例えば授業や研究集会がオンラインであったり，また海外にも行きにくかったりといったことがありました．４月からはいろいろな制限がなくなり早く以前の状態に戻れることを期待しています．

皆さんは今後様々な方向に進まれることと思います．博士で数学の研究をさらに進めるかたもいらっしゃるでしょうし，社会に出て活躍される方もいらっしゃると思います．いずれにせよ今後数年間，大きな生活面や仕事上の変化を体験されるのではないでしょうか．

私自身は数学の研究者ですので，研究に関することしかお話しできませんが，私が大学院を卒業した後に転機になったことをお話ししたいと思います．大学院を卒業した後，ポスドクとしてアメリカにわたりました．生活・研究ともに全くの新しい体験でしたが，印象に残っているのは，一つはそのころ私の研究していた数学の問題に対する「見方」の大きな変化を経験したことです．量子コホモロジーのパラメータに関する解析接続の問題を考えていたのですが，それが全く別の問題と密接に関連しているということに気が付きました．これは気が付けば当たり前のことなのですが，なかなか気が付きませんでした．意外と身近なところに重要なヒントが落ちている，というのがその時の私の感想です．もう一つは，共同研究者を得たことです．数学は世界共通の言語といえると思いますが，同じ問題であっても人によって数学の「見方」はまったく違います．いろいろな見方のぶつかり合うところが共同研究の面白いところかと思います．そういう意味で，今後研究を続ける方にとっては共同研究は大変お勧めです．

研究によりすぎた話をしてしまったかもしれません．研究の道に進まれない方にとっても，修士で培われた数学の能力は皆さんの財産であり，今後も何らかの形で生きてくるものと思います．

以上簡単なご挨拶となりましたが，皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます．